

多摩デポ通信 第55号

特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩

2020年11月7日発行

〒182-0011 調布市深大寺北町一・三一・一八

●HP <https://www.tamadepo.org/>

●E-Mail depo_tama@yahoo.co.jp

コロナ禍の中で

多摩デポの近況

理事長 座間直壯

昨年11月末中国で発生したと報じられる新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は年明け1〜2月頃から日本国内でも症例が報告され、瞬く間に拡大しました。全国の学校には3月初旬から休校要請。児童生徒たちは自宅学習を余儀なくされ、春休み後も始業式・入学式もなく、登校できない日々が続きました。政府は4月7日に東京都を含む7都道府県に緊急事態宣言を発出。

4月17日には全都道府県に拡大されました。

緊急事態宣言解除後も不要不急の外出自粛が要請され、次第に国民には「新しい日常」（感染拡大防止のための習慣）が求められて、今に至っています。

この様な状況の中、会員の皆様は如何お過ごしでしたでしょうか。仕事への多大な影響、外出自粛や公共施設の休業など不自由な生活をされたことと思います。

図書館でも試行錯誤を重ね、対応策を展開してきています。当初、閉館を余儀なくされた時期もありましたが、現在は多くの館が業

第39回多摩デポ講座

「“市民の図書館”の資料保存問題」

講師：山口源治郎氏（東京学芸大学特任教授）

- ・日時：11月29日(日) 午後2時～4時
- ・会場：国分寺労政会館 4階 第5会議室
(JR中央線 国分寺駅南口 徒歩5分)
- ・定員：70名 *多摩デポ会員でない方も参加できます
- ・資料代：500円
- ・申込：11月25日(水)締切。E-mailかFax(042-484-3945)で

「暮らしの中に図書館を！」と、資料提供に励んできた、多摩の図書館の半世紀。では私たちは、資料保存の問題には、どれほど真剣に取り組んできたでしょうか。「書庫に収納しきれない資料は市民リサイクルへ……」という方法で、今後、資料提供の役割は果たしていけるのでしょうか。

東京学芸大学で長期にわたり司書育成に関わってこられた山口先生のお考えを話していただけることになりました。新型コロナウイルス感染予防対策をしっかりとって、今年度初めてのデポ講座を開催します。是非、ご参加ください。

務を再開しています。しかし内実はかなり制約を伴う開館であり、これはこの先も続くと思われまます。

私たち多摩デポの活動も予定した講座、講演会の中止、総会を変則的な方法で開催するなど、一変するものになりました。『多摩デポ通信』も記事の収集や構成の作業ができない状況が続き、4月の第54号以降、発行が滞ってしまいましたことをお詫びします。

夏以降も感染拡大収束は予断を許さない状況ですが、政府からは都道府県知事宛の事務連絡（令和2年9月11日）で「11月末までの催物の開催制限等について」

「https://corona.go.jp/news/pdf/jimurenraku_20200911.pdf」という通知がありました。一定の条件を満たせば、収容人員の収容率100%までも可能ということが示されました。

そこで私たちも、総会記念講演会に予定した山口源治郎先生にお願ひし、多摩デポ講座を開催することとしました。この講座を機に、コロナ禍の中で、或いは収束後に、多摩デポが図書館支援として出来ることを皆さんとともに考えていきたいと思います。

こんな中、大変悲しい連絡が入りました。当法人顧問の平山恵三さんの訃報です。10月14日に肺炎のため逝去されました。平山さんは設立から2016年度まで、ずっと副理事長として活動を支えられ、退任後は顧問として引き続き様々な相談に応じていただきました。「困ったときの平山さん頼み」で、多摩デポには欠かせない存在でした。第4回多摩デポ講座で、「公共図書館・地域資料供覧の空気に全国の図書館を訪ねながらの感想と希望」の

題でお話いただいた内容は、『多摩デポブックレット④』となっております。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

最近の出来事では、TAMALASの検索に国立国会図書館の蔵書も入れられることになりました。ISBN付き図書その他館の所蔵状況の検索に、国立国会図書館の所蔵も同時に見ることが出来ます。この案内は、館長協議会を通じて多摩地域の各図書館にもお配りしました。図書館の皆様には是非ご活用いただきたいと考えます。ご意見、ご質問があればお寄せください。

まだしばらくはコロナ禍の生活を強いられることになると思いますが、皆様やご家族のご健康を心よりお祈り申し上げます。

第39回多摩デポ講座 “市民の図書館”の 資料保存問題

講師 山口源治郎氏
(東京学芸大学)

山口先生は、日本図書館協会から1970年に発行された『市民の図書館』の内容と、それを実践するよう発展してきた多摩地域の公立図書館の実践を高く評価してこられました。そのうえ多摩の図書館をただ歴史として評価するだけでなく（地域の大学に腰を据え）変化する実態を、日々見てこられました。図書館協議会や図書館計画の委員を歴任され、幾つもの市で具体的な提言などのかかわりもお持ちです。その意味で、この地域の図書館界には唯一無二の学者です。

多摩デポや共同保存問題の関係でいえば、2000

年頃の都立図書館再編計画やその一環の旧都立多摩図書館（立川市にあった）の廃館問題では、撤回運動に深く関わられたこともあり

ます。
そんな先生が『市民の図書館』と資料保存の問題について話されます。おそらく先生にも初めてで、私たちには明日につながる貴重な講演になると思います。ぜひご参加ください。以下は山口先生からいただいた

いる、講演の構想です。
・70年代以降の『市民の図書館』は、資料提供に比べ、資料保存の問題についてはほとんど課題化してこなかった。

しかし特に21世紀に入り、この資料保存問題が提供と表裏の問題として意識化されつつある。
・講演では、そこに横たわる諸問題を多摩地域にそくして考えてみたい。

（株）カールとの 共同研究定例会報告

新型コロナ感染拡大の影響で延期していましたが、10月6日にZOOM会議の形で再開しました。

今回はまず、コロナ禍におけるカールの取組みについて話してもらい、非常事態下に図書館はどうあるべきかを考えました。

特に当初、臨時休館した公共図書館の中にはインターネット上の蔵書検索を停止した館もあり、それに対しカールは、カールに残るデータとシステムを使って公開する取り組みをしました（この情報アクセスの保障は高く評価したいと思います）。また学校図書館の蔵書検索サービスを無償で提供し、休校下でも蔵書情報が公開できるようにしました。これ以外にもITで対応できることを積極的

に行いました。コロナ禍の負の状況に委縮せず、逆に新たな取り組みに果敢に挑む姿がありました。

共同活動も大きな進展がありました。TAMALAS（多摩地域公共図書館蔵書確認システム）個別処理システムの検索結果に国立国会図書館の所蔵情報も表示できるようにしました。

TAMALASは多摩地域内で希少な資料を見つけ出すシステムとして開発し、利用してもらっていますが、ISBNが付与された図書なら多摩地域の図書館及び都立図書館に加え、国立国会図書館の所蔵も同時に分かるということでした。

法定納本制度のある国立国会図書館ですが、国内の出版状況が俯瞰的に分かるようになってみると、実は商業出版物でも未所蔵な場合がかなりあるのが分かっています。多摩地域では所

蔵していて自館では除籍候補になる蔵書のうち、国立国会図書館で所蔵していない場合には同館への提供も考えることが、簡便にできるようにになりました。

このTAMALASの改良のことは、国立国会図書館にも連絡し、図書館の除籍資料も受け入れると了解を得ています。寄贈する場合は、同館ホームページの「資料の寄贈について」を参照してください。

https://www.ndl.go.jp/jp/collect/col/lecture/index.html#col_01/

なおTAMALAS一括処理システムの活用を申請した自治体は、現在次の10市になっています。

国分寺市、西東京市、清瀬市、武蔵野市、羽村市、青梅市、昭島市、東大和市、小平市、府中市

平山恵三さんを偲ぶ

理事 齊藤誠一

多摩デポ副理事長を長く務められた平山恵三さんがお亡くなりになりました。享年83歳でした。

私にとって平山恵三さんは、一人前の司書に育てくれた恩師の一人です。平山さんは立川市図書館のヘビューザーでした。特に地域に関するレファレンスや信用金庫に関する問い合わせが多く、当時同市の中央図書館に勤めていた私には、司書の力量を問うてくる利用者のひとりでした。半端な回答ではこちらの力量を見透かされ、緊張を強いられる利用者でしたが、信頼関係ができればと温かいまなざしをいつも向けてくださいました。

一を聞かれたら十を出すことを司書に要求し、それ

ができる図書館員を評価した人でした。博識であるがゆえにお話しも楽しく、つい聞き入ってしまい時間が経つのを忘れてしまうこともありました。

平山さんは、多摩中央信用金庫（現・多摩信用金庫）に長く勤務され、地域の研究誌である『多摩のあゆみ』の創刊に関わり、信用金庫の歴史を研究し続けていました。とにかくまめな方で、全国の信用金庫を訪ね歩き、その歴史をつぶさに調査していました。

信用金庫を知るにはその町の歴史を知る必要がある。そのために文献の発掘は不可欠であり、役所や図書館を使いこなし、地域と密接にかかわる信用金庫に光を当てる活動を続けていました。その成果は、雑誌『信用金庫』（全国信用金庫協会月刊）の中で「信用金庫の源流」として連載されてい

ます。

ある時のレファレンス・カウンターでのやり取りをよく覚えています。佐久間達夫校訂の『測量日記（全7巻）』（伊能忠敬著、大空社、1998）を手に入れたという相談でした。偶然ですが大空社の担当者を私が知っており、すぐに連絡して平山さんに引き合わせました。当然、その資料を手に入れ大喜びでしたが、その後、その担当者の方と意気投合し、昵懇の間柄となっていました。資料を編纂する人を暖かく見守る平山さんの人柄が偲ばれるエピソードです。

蔵書も半端ではなく、長く立川にお住まいでしたが、山梨県の北杜市に移られたのは、蔵書の関係があったのかと思います。大自然の中で精力的に活動されていたことが印象的でした。

多摩デポでは副理事長と

して、ご意見番の役割をさせていただきました。特に地域資料の保存には並々ならぬ思いをお持ちでした。また本法人の会計処理は平山さんの知識に負うところが大きく、さまざまな場面で助けていただきました。

平山さんについてお話ししたいことはたくさんあります。もうお会いできないのが残念でなりません。あの平山節をお聞きできないのかと思うと寂しい気持ちで胸が一杯になります。

なお、多摩デポブックレット④『現在を生きる地域資料―利用する側・提供する側』（平山恵三、蛭田廣一共著、2011）には、お人柄の偲べる、平山さんらしいエピソードが載っています。ぜひご覧ください。心からご冥福をお祈りいたします。

「図書館資料の里親探し」年度中間報告 ―そして今思っている―

コロナ禍で例年のような活動が難しい中ですが、「図書館資料の里親探し」は継続して事業を行っています。

年度の前半の7月には、ある図書館から文学全集等7件について、里親を探して欲しいとの依頼がありました。そこで、各自治体の所蔵状況を調査し、その結果を書き添えて里親を募集したところ、5自治体から申込みをいただきました。

【里親を募集した本】

- ・ 木山捷平全集 全8巻 講談社 1978-9
- ・ 木俣修全歌集 全1巻 明治書院 1985
- ・ 木下柰太郎日記 全5巻 岩波書店 1979-80
- ・ 啄木全集 全8巻 筑摩書房 1967-8

・ 野上弥生子全集

全23巻・別巻3巻

岩波書店 1980-86

・ 鏡花全集 全28巻の内

2,3,4,5,7,10,11,15

岩波書店 1940-2

・ 桑原武夫集 全10巻

岩波書店 1980-1

毎回、募集当日や翌日からFAXで申し込みが届き始めます。基本的には「先着順」なのですが、申込みが重なった場合は、「①一括引取希望 ②欠本補充 ③汚破損本取替え」の順での、各先着順で里親を決めるというルールです。そのため、今回募集翌日に欠本補充のため1冊だけ申込みしてくださった館が、1週間後にその全集の一括引取を希望した館に負けてしまう、ということも起きました。最終的には2自治体が里親になり、3自治体は残念ながら落選という結果になりました。

した。できるだけ多くの本を活かそうとするルールなのですが、欠本を埋めたい図書館の落胆を思い、申し訳ない気持ちも抱えつつ、当選・落選の結果通知を送りました。

そして、年度後半に入った最近、また里親探しの依頼が届きました（この通信がお手元に届く頃には、各自治体に募集を開始している予定）。たくさんの申込みがあることを期待し、申込みが重ならないことも祈りながら、締切日まで応募のFAXやメールをチェックすることにします。

ところで、多摩地域の図書館の除籍作業は、コロナ禍でどのように変化しているのでしょうか。この間、緊急事態宣言に伴う休館や、3密になる事業の中止、一部サービスの休止など、業務が制限された図書館が多

くありました。職員も勤務体制が変化したり、コロナ対策に従事したり、予約本受渡しが増加したりと、新たな仕事の仕方も求められてきたと思われまます。

これまで日々の絶え間ない業務の中で、蔵書の見直しや除籍の時間が十分に確保できないでいた図書館は、コロナ禍で除架、除籍の作業が進んだのか、あるいは逆にもっとできにくくなったのか、現段階の「里親探し」の申込状況からは、まだ把握できないでいます。けれども、いずれの場合も、除籍予定の本に基本図書が含まれていたら、多摩デポの「図書館資料の里親探し事業」で再活用をはかることを考えていただきたいなと思っています。

除籍の動向に関係するところで、他にも気になっていることがあります。

8月から、文部科学省の文化審議会著作権分科会の「図書館関係の権利制限規定の在り方に関するワーキングチーム」で、「入手困難資料へのアクセスの容易化」や「図書館資料の送信サービス」に関しての検討が行われているのをご存じでしょうか。(議事次第や配布資料は文化庁のサイトの以下のページで見られます。

https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/c-hosakuken/toshokan_worki-ng_team/

10月26日に開催された第4回会議の資料「入手困難資料へのアクセスの容易化(法第31条第3項関係)に関する取りまとめ(案)」には、「2. 対応の方向性」に「新型コロナウイルス感染症の流行に伴うニーズの顕在化等を踏まえ、様々な事情により図書館等への物理的なアクセスができない場

合にも絶版等資料を円滑に閲覧すること」ができるよう、権利者の利益を不当に害しないことを前提に、国立国会図書館が、一定の条件の下で、絶版等資料のデータを各家庭等にインターネット送信することを可能とすることとする。」とあります。

これが実現するかどうかは未確定です。しかし、もし実現したら、家庭へのインターネット送信が可能となる本の一部については、書庫スペースが逼迫している市町村立図書館の除籍が加速する可能性があると思われれます。

けれども、この「アクセス容易化」の対象となる紙の本も、インターネット環境やPCの利用技術が無い人、紙で読みたい人、システム等の関係で送信されない時、資料がその後「絶版等」ではなくなる場合など

のために、やはり多摩地域で残り2冊は保存し、利用できるようにしておく必要があるでしょう。

共同保存図書館の実現に取り組んでいる多摩デポとして、今この動向に高い関心を寄せています。また、除籍資料の再活用の中介を行う「図書館資料の里親探し事業」にも、今後いろいろと影響がでてくるだろうと思っています。

(事務局 吉田)

□ 今号の内容 □

- ・ コロナ禍の中で
～多摩デポの近況～
理事長 座間直壯
- ・ 第39回多摩デポ講座の案内
- ・ (株)カーリルとの共同研究
定例会報告
- ・ 平山恵三さんを偲ぶ
理事 齊藤誠一
- ・ 「図書館資料の里親探し」年度中間
報告—そして今思うこと
事務局 吉田
- ・ 会の現勢

★会の現勢

2020年11月1日現在

●正会員

(個人会員82名)

●賛助会員

(個人39名)
(団体1団体)

●年会費

正会員 五千円

賛助会員 一口二千円

は、納入をお願いします。